

科目名	こども臨床学		担当教員	大村 あかね		
			担当形態	単独		
テキスト	適宜プリント教材を配付します。	単位数 授業形態	2単位	講義	開講時期	後期
<p><b>講義概要</b></p> <p><b>■到達目標</b></p> <p>子どもを理解し、その理解に基づいてかかわり、実践をふりかえり、更に子ども理解を新たにしていく、という保育の基本を改めて確認した上で、自分の子どもへの理解と関わりが、子どもにとってどのような意味を持つのかを考え、多様な視点で検討する姿勢をもつことを目指し、次の3点を目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の子ども理解や子どもへの関わりについて、その根拠を交えて説明できる。</li> <li>・他者の多様な意見を聞いて、自分の子ども理解や考えを捉え直し、様々な援助の可能性を検討できる。</li> <li>・子どもを理解する様々な手掛かりや方法を知り、必要に応じて選択できる。</li> </ul> <p><b>■授業の概要</b></p> <p>子ども理解が保育の原点であり、どのように理解し、それをどのように援助につなげていくのが重要であることは、2年生後期の皆さんならば言うまでもないことかも知れません。</p> <p>しかし、子ども理解や援助そのものに答えはなく、その場、その時によって、適切な判断には様々な可能性があります。そこで、自分の子ども理解やその根拠について知り、そこに他者との話し合いやワークを通して自分以外の多様な意見や見方に耳を傾け、自分の考えの枠組みや子ども観、保育観を検討し続ける姿勢を身につけることが必要になります。</p> <p>これまで実習などで、一度経験したことで、異なる角度から考えてみることで、新しい見方、視点の広がりが生まれてきます。視点が広がる面白さ、答えがないからこそ、考える醍醐味を感じられる時間にしたいと思います。</p> <p><b>■授業計画</b></p> <p>第1回 子ども理解と関わりとの関係  第2回 子どもを理解するために必要な視点  第3回 子どもの発達理解  第4回 子どもの行為の理解  第5回 子どもの表現の読み取り  第6回 子ども理解の様々な方法について考える  第7回 援助の方法としてよく使う言葉について考える  第8回 子ども理解と関わりを振り返るための記録①  第9回 子ども理解と関わりを振り返るための記録②  第10回 子どもを理解する手掛かりと態度  第11回 子どもと関わる基本姿勢としてのカウンセリング・マインド  第12回 子ども観と子ども理解  第13回 自身の枠組みと子ども理解～「当たり前」を問い直す～  第14回 他者とともに子ども理解を検討する  第15回 まとめのレポート作成  第15回 保育における「臨床」とは</p> <p><b>■準備学習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習等の記録を見返し、話して伝えられるようにしておくこと。</li> <li>・授業で示された自己学習を行うこと。</li> </ul> <p><b>■評価方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いやワークへの取り組みの積極性 — 20%</li> <li>・小レポート — 30%</li> <li>・期末レポート — 50%</li> </ul>						
参考文献	特になし。		特記事項	【課題等のフィードバック方法】 レポートやワークの記録用紙は、必要に応じてコメントを記入して、必ず学生に返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	幼稚園教諭免許状必修 保育士資格必修		幼	教職に関する科目		
			保	保育の対象の理解に関する科目		